

2011 年度報告書（研究員）

氏 名	櫻田 貴道
職 位	研究員
<p>研究概要</p> <p>組織の制度化プロセスと制度形成におけるリーダーシップの働きを明らかにするために研究し論文を提出した。論文では、組織における逆機能の防止を制度の概念によって解決しようとするセルズニックの問題関心と理論枠組みを基本的に引き継ぎ組織の制度化について考察している。</p> <p>セルズニックは、制度の概念を用いて、組織に起こる逆機能の問題を分析し、それを防止するための方策を探っている。彼の研究は、師であるマートンの官僚制の逆機能に関する研究を引き継いだものであり、マートンの理論的な研究を TVA などの組織の実証分析を行うことによってさらに推し進めている。</p> <p>しかしながら、セルズニックの構築した理論には理論的問題がある。彼は理想的な制度の状態に導くリーダーシップの役割を主張しているが、相互作用を通じて組織が制度化されるプロセスについてはその必要性に言及しながらも理論化しておらず、規範的な主張に留まっているといえる。意図的に制度形成を行うためには相互作用からの制度化のプロセスを明らかにし、その理論を補完する必要があるといえる。</p> <p>組織論において、制度の概念を用いて組織を分析しているのはセルズニックだけではない。セルズニックを旧制度論と位置付け、自らを新制度学派と名乗る研究者たちや組織文化研究も組織の制度化と深く関係している領域である。これらの組織の制度化に関する諸理論を検討し、相互作用から形成される組織の制度化プロセスを明らかにし、制度化を主体的に行えることを理論的に基礎づけ、制度形成のモデルを提示している。</p>	
<p>業績リスト（著書、論文、報告、その他に分けて主要なものを記入する）</p> <p>論文 組織における制度形成とリーダーシップ—制度化プロセスおよび逆機能の防止に関する理論的考察— 2011 年 5 月 京都大学（博士論文）</p>	

